

# 第1学年2組 特別の教科 道徳学習指導案

授業日 平成30年6月21日(木) 2校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 釧 仁美

会場 1年2組教室

## 1 主題名

どうして 正直に言わなければいけないの? —正直, 誠実 善悪の判断—

教材名「だれも 見て いない」(学研)

## 2 本主題の価値

本主題は、学習指導要領解説第1学年及び第2学年の内容に準拠して設定したものである。

A 主として自分自身に関すること

主となる道徳的価値【正直, 誠実】

(2) うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。

関連する道徳的価値【善悪の判断, 自律, 自由と責任】

(1) よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。

低学年の段階においては、何事にも興味や関心を示し意欲的に行動することが多い反面、生活経験の少なさから引っ込み思案になったり物おじしたりすることがある。何事にも意欲的に行動しようとする低学年のうちに、よいことと人間としてしてはならないことを判断する力を養うことはこれからの生活を送るうえで大切なことである。また、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちになると、正直に言うという明るい気持ちになることを想起させ、正しいことは進んで行うとする意欲と態度を育てていくことが大切である。

そのために、本主題では次のような教材を扱う。

主人公のたけしと友達のかんたの二人で、クラスの友達が作った作品を見ている。そのうちに、ひろしの作品を触ってしまい壊してしまう。二人は、顔を見合わせる。

友達の作品を壊してしまった主人公がひろしの作品を壊してしまう。二人は顔を見合わせる。顔を見合わせた二人は「正直に言った方がいいかな」「わざとじゃないから、直しておけばいいかな」と悪いことをしたと分かりながらも、どうしたらよいのか迷う。このような道徳的な問題は、子ども自身にも経験があるはずである。子どもは、「すぐに謝ればいい」と観念的には理解している。これまでの生活経験から「よくないことをしたときには怒られるから謝った方がいい」「よくないことをしたときには、謝ればいい」ということを知っているからである。「なぜ、正直に謝ることが大切なのか」という道徳的価値の大切さについて考えるところまでには至っていないのである。道徳的価値の大切さを理解しなければ、よい行為を判断することは難しい。本主題は、「正直, 誠実」「善悪の判断」という道徳的価値に焦点を当て、どうすることがよりよいのか、どう判断したらよいかを考えられることができる。「見方・考え方」を働かせ、道徳的な判断力を育成するのに適している主題である。ここに本主題の価値がある。

## 3 本主題で目指す姿

「正直, 誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の大切さを理解し、よりよい行為を判断する子ども

具体的には、「正直, 誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の本質や意義に着目し、多面的・多角的に考えたり、経験を基に考えたりするという「見方・考え方」を働かせ、どのように行動したらよいかを具体的に考え、表現する力という資質・能力を発揮して、「たけしさんの作品を壊してしまったんだよ。壊してしまってごめんね。次からは気を付けるねと言います。悪いことをしたときに謝ると気持ちがすっきりするからです」などと課題解決した姿。

## 4 本主題で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

## 5 指導計画 全1時間

単元カード参照

## 6 指導の構想

これまでに、「節度、節制」や「規則の尊重」についての道徳的価値の大切さを理解し、よいことをすると気持ちがよいということ、悪いことをすると嫌な気持ちになることを理解している。また、学習を通して、正しいことをするとすがすがしい気持ちになるということを理解し、これからはよいことをしたいと考えている(C0)。このような子どもに、次のように働き掛ける。

### 働き掛け1

教材を提示し、たけしさんの気持ちへの共感と理由とを問う。

「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値を自分とのかかわりで考えさせ、問いをもたせるための働き掛けである。

まず、教材を読み聞かせる。教材の内容を知った子どもは、「このままでだめだ」「絶対にあとでばれる」などと考える。心の中で考えていることを表出させるために「このときのたけしさんは、どんな気持ちだろうか」と問う。子どもは「ドキドキする気持ち」「やばいという気持ち」などと気持ちを発言する。このような子どもに、気持ちは分かるか、なぜ分かるのかと問う。「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値を自分とのかかわりで考えさせ、「見方・考え方」を引き出すためである。子どもは、たけしさんの気持ちに共感して「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の本質や意義に着目して経験を基に考えたり、多面的・多角的に考えたりする「見方・考え方」を働かせて理由を考える。理由として「前にお兄ちゃんが大切にしている物を壊してしまって、やばいって思った(経験+善悪の判断)」「私は、学校のピアノを叩いて音が出なくなったとき、言わなきゃ分からないかなと思ったけれど、きっと怒られると思ってドキドキした(経験+正直、誠実)」などと挙げる。子どもは、これまでの自分の経験から「このままでだめだ」と考える。「このままでだめだ。どうすればよいのか」と考えている姿を問いをもった姿と見なす。学習課題は「たけしくんは、どうしたらよいのだろうか」と設定する。

### 働き掛け2

自分がたけしさんだったらどうするか行為と理由とを問い、考えの大切さと共通点を問う。

学習課題に対する解決の見通しをもたせるための働き掛けである。

このあとどうすればよいのだろうと考えている子どもに「自分がたけしさんだったらどうするか、それはなぜか」と、行為と理由とを問う。個々の行為を明確にもたせるためである。行為は「自分がやったと言う」「自分がやったと言わないでごまかす」の二択でワークシートに記述させる。多くの子どもは、「自分がやったと言う」と答える。理由は、数名を発言させる。本来ならば、行為とともに記述をさせることで、個々の考えを明確に見取ることができる。しかし、1年生であるため、自分が思っていることを的確に文字に表すことは難しい。よって、数名の子どもに発言させ同意できるかどうか確認する。子どもは「正直に謝ることが大切だから」「謝らないと、怒られるから」「分かっているけれど、言えない」と答える。正直に言うことが大切であると考えている子どもに「どうして、正直に言わなければならないのか」と問う。3人から4人を1グループとして話し合いの場を設定し、可能な限り大切である理由を考え出すように指示する。多様な視点や多様な考えを引き出すためである。3人から4人の編成は、多様な考えを導き出させるためである。2人であると新たな考えは出にくい。クラス全体になると、当事者意識が低くなる。低学年だからこそ、3人から4人での話し合いに意味がある。話し合う際、上図の「大切なこと(ルール)」や「考えるためのかぎ」を使って話し合わせる。一定のルールの中で、安心して話ができるようにするためである。また、「考えるためのかぎ」を使うことにより考えが深まる。子どもは、「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の本質や意義に着目して経験を基に考えたり、多面的・多角的に考えたりする「見方・考え方」を働かせて「謝らないことはだめなことだから(善悪の判断)」「謝らないと相手に悪いから(善悪の判断)」、「正直に言わないのは、

#### ☆たいせつなこと☆

- ・みんなで きめたことについて はなす。
- ・人を バカにするようなことは いわない。
- ・じぶんのおもったことを けいけんしたことと いっしょに かんがえる。
- ・さいごまで、ともだちのはなしを きく。
- ・かんがえるための かぎを つかってはなす。



#### かんがえるための かぎ

- Q.それって どういうこと?
- Q.なぜ? どうして?
- Q.それってほんとう かな?
- Q.たとえば?

だめなことだから(正直, 誠実)」「嘘をつくと嫌な気持ちになるから(正直, 誠実)」などと、考える(協働性)。グループで話し合った後に、全体で考えを共有する場を設定する。多様な考えに触れさせ、「正直, 誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の本質や意義に着目して経験を基に考えたり、多面的・多角的に考えたりする「見方・考え方」を明確にさせるためである。このとき、子どもの発言を立場ごとに板書で分類する。分類したあとに、共通点を問う。子どもは「自分の気持ち」と「ひろしさん(相手)の気持ち」について考えていたことに気付く。様々な考えを知り、自分の気持ちと相手の気持ちを考えることが大切であると気づき、解決の見通しをもつ。

#### 働き掛け3

**自分がたけしさんだったら何と言うか、具体的な言葉を問う。**

どのように行動したらよいか解決の方法を考えさせるための働き掛けである。

解決の見通しをもった子どもに、自分がたけしさんだったら何と言うか、具体的な言葉を問い、ワークシートに記述させる。どのように行動したらよいか具体的に考えさせるためである。子どもは、「ぼくがたけしさんだったら、『作品を触っていたら壊してしまったんだ。ごめんなさい。直すの手伝うよ』と言う」などと、正直に言うことの大切さを理解し、どのように行動したらよいかを具体的に考える(①知識・技能, ②思考力・判断力・表現力, ③態度)。

#### 働き掛け4

**具体的な言葉を考えた理由を問う。**

どのように行動したらよいか根拠をもって判断させるための働き掛けである。

自分がたけしさんだったら、どのように言うかを考えた子どもに、考えた理由を問う。判断した根拠を明確にさせるためである。子どもは、「謝ると気持ちがすっきりするから」「謝らないと相手に悪いから」「ごまかすと嫌な気持ちになるから」などと、道徳的価値の理解を基に理由を考える(①知識・技能)。

このようにして、「正直, 誠実」「善悪の判断」についていずれかの道徳的価値の理解を理由として挙げ、どのように行動したらよいかを表現することで「正直, 誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の大切さを理解し、よりよい行為を判断する子ども(Cn)となる。

#### 働き掛け5

**これからの自分の生活に生かしていきたいことと、理由を問う。**

課題解決するために発揮した資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

課題解決した子どもに、これからの自分の生活に生かしていきたいことと理由とを問い、道徳ノートに記述させる。子どもは課題解決した過程を振り返り「よくないことをしてしまったとき、正直に言おうか言わないか迷うけれど、がんばって言おうと思う。どうしてかという、正直に言う気持ちと気持ちがすっきりするからです」と判断の仕方や行為の在り方を具現しようとすることを記述する。そして、本主題の学びにおいて、どのような資質・能力を発揮したのかを自覚する。

## 7 本時の構想 (本時 1/1時間)

### (1) ねらい

失敗したときに、正直に言うことの難しさを感じとらせたいので、正直に言うことの大切さを考えさせることを通して、よいと思うことをするとすがすがしい気持ちになること、正直に言うことと明るい気持ちになることを理解させ、置かれた状況の中でどうすることがよりよいかの判断力を高める。

### (2) 主張(展開) 45分

このような子どもに(C0)

- よいことをすると気持ちがよいことを理解している。(①知識・技能)
- 悪いことをすると嫌な気持ちになることを理解している。(①知識・技能)
- 正しいことをするとよい気持ちになるということを理解し、これからはよいことをしたいと考えている。(①知識・技能の自覚)

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 教材を提示し、たけしさんの気持ちへの共感と理由を問う。  
・説明「今日のお話は『だれも 見て いない』というお話です。読んでみますね」

- ※ 再現構成法で読み聞かせを行う。
- ※ 子どものつぶやきがあれば取り上げ、つぶやきの理由を問い返す。
  - ・発問「このときのたけしさんはどのような気持ちなのでしょう」
  - ・発問「こういう気持ちは分かりますか。どうして分かるのですか」
- ※ 経験を語った子どもの発言を受けて、同意できるか挙手させる。
  - ・説明「みんなは、たけしさんの気持ちは分かるけれど、このままだとだめだと思っているのですね。では、たけしさんは、このあとどうしたらよいのでしょうか」

### このようになり (C1)

- 教材の内容を知り、たけしさんのことを自分とのかかわりで考える。
  - ・今日は、どんなお話かな。
  - ・どうしようって、ドキドキしている気持ちです。
  - ・どうしようっていう気持ちです。
  - ・たけしさんの気持ち、分かります。前にお兄ちゃんが大切にしている物を壊してしまっとうしようって思ったからです。(経験+善悪の判断)
  - ・たけしさんの気持ち、分かります。私は、学校のピアノを叩いてしまって音が出なくなったとき、言わなきゃ分からないかなと思ったけれど、きっと怒られると思ってドキドキしました。(経験+正直, 誠実)
- ※           のように、「正直, 誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の本質や意義に着目し、経験を基にして考えたり、多面的・多角的に考えたりする「見方・考え方」を働かせていけば、通過とする。
- ※ 【正直, 誠実についての道徳的価値】  
 「ごまかすことはだめなこと」「ごまかしていると嫌な気持ちになる」「正直に言うことが大切」などと、嘘をついたりごまかしたりしないで正直であることがよいと思っている考え方。  
 【善悪の判断についての道徳的価値】  
 「悪いことはしちゃだめだ」「悪いことをするのは、相手に悪い」「正しいことではない」などと正しいことをしようとしている考え方。  
 ただし、ここでの子どもの姿は、必ずしも正しさだけを追求していなくてもよい。迷いがあったり、言えなかったりした経験を想起しそのときの気持ちを語ることが重要である。
  - ・このままじゃだめだよ。
  - ・ちゃんと正直に謝った方がいいよ。
  - ・たけしさんは、どうしたらよいのかな。

### このように働き掛けると【働き掛け2】

- 自分がたけしさんだったらどうするか行為と理由とを問い、考えの大切さを問う。
  - ・発問「自分がたけしさんだったら、どうしますか」
- ※ ワークシートを配付する。
  - ・指示「ワークシートの自分がやったと言う、自分がやったと言わないでごまかすのどちらかに丸をつけましょう」
- ※ 自分がやったと言う、自分がやったと言わないでごまかすのどちらを選択したか挙手で確認する。
  - ・発問「どうして、自分がやったと言う(自分がやったと言わないでごまかす)のですか」
  - ・発問「自分がやったと言う人も、自分がやったと言わないでごまかしてしまうなどという人も正直に言わなくちゃいけないと思っているのですね。どうして、正直に言わなければいけないのでしょうか」
  - ・指示「グループで、できるだけたくさん考えてみましょう」
- ※ 対話のグループになるよう指示する。席を立ち、床に座って話し合ってもよいことを伝える。
- 考えの大切さについての共通点を問う。
  - ・指示「どのようなことを話し合いましたか。話し合ったことを発表してください」
- ※ 子どもの発言を、自分のことを考えてと相手のことを考えてという立場ごとに板書で分類し可視化する。
  - ・発問「みなさんの考えを二つに分けて書きました。こちらの考えで同じことは何でしょうか」

- ・説明「自分の気持ちも大切ですが、ひろしさん(相手)の気持ちも大切にしなければいけないと思っているのですね」

### このようになり (G2)

- 自分がたけしさんだったらどうするか考え、なぜそうすることが大切なのかを考える。
  - ・けんたくんだったら、謝ります。
  - ・ぼくは、言わなければいけないことは分かるのですが、なかなか言えません。
  - ・正直に謝ることが大切だからです。
  - ・謝らないと、怒られるからです。
  - ・怒られたくないから、言えないと思ったからです。
  - ・どうして正直に言わなければいけないのかって考えたことがなかったな。
  - ・正直に言わないと、気持ちがすっきりしないから。(自分の気持ち)
  - ・どういうこと?
  - ・前にね、物を壊して正直に言えなかったの。でも、家に帰っても何だか気持ちがすっきりしなくて。それで、ママに話をして正直に先生に言ったら、何だか気持ちがすっきりしたことがあるんだよ。
  - ・正直に言わないと、先生に怒られるから。(自分の気持ち)
  - ・もし、ごまかして黙っていて、自分の作品が壊れたことを知ったひろしさんはすごく嫌な気持ちになると思うから。(相手の気持ち)
  - ・正直に言わないと、ひろしさんに悪いから。(相手の気持ち)
- 考えの大切さの共通点を考える。
  - ・こっちは、自分のことを言っている。
  - ・もう一つの方は、ひろしさんのことを言っている。
  - ・自分の気持ちと相手の気持ちのことだ。
  - ・自分のことと、相手のことを言っている。どうして正直に言わなければいけないかという、自分もそうだけど、相手のことも考えるとそうした方がいいからだ。
- ※           のように、「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の本質や意義に着目し、経験を基に話していたり、立場の視点から多面的・多角的に考えていたりしたら、「見方・考え方」を明確にし、見通しをもった姿として通過とする。
- ※ 経験を基に話す、多面的・多角的に考えることについて、発言だけでなく同意(挙手、うなずき)をしていたら通過とする。

### このように働きかけると【働き掛け3】

- 自分がたけしさんだったら何と言うか、具体的な言葉を問う。
  - ・発問「自分がたけしさんだったら、このあとに何と言いますか。ワークシートに書きましょう」

### このようになり (G3)

- 自分がたけしさんだったら、何と言うかを考える。
  - ・私がたけしさんだったら、「たけしさんの作品を壊してしまったんだよ。壊してしまつてごめんね。次からは気を付けるね」と言います。
  - ・ぼくがたけしさんだったら、「作品を触っていたら壊してしまったんだ。ごめんなさい。直すのを手伝うよ」と言います。
- ※           のように、「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の理解という①知識・技能を、          のように、どのように行動したらよいかを具体的に考え表現する力という、②思考力・表現力・判断力を記述していたら通過とする。
- ※ ①知識・技能、②思考力、判断力、表現力を両方記述していたら③態度を発揮しているとして通過とする。  
★道徳科①②③

### このように働きかけると【働き掛け4】

- 具体的な言葉を考えた理由を問う。
  - ・発問「自分がたけしさんだったら、何と言うか考えましたね。どうして、そのように言った方がよいと思うのですか。理由をワークシートに書きましょう」
- ※ 理由の意味が分からない子どもには、机間指導を行い「どうして、このように言おうと

考えたのですか」と個別に問う。

※ 時間があれば、働き掛け3で考えた具体的な言葉の言い方を実演させる。実演後に、具体的な言葉を考えた理由を発表させる。

※ 実演後には、演者、参観者に感想を言うように促す。

### このようになる (Cn)

○ 善悪の判断についての道徳的価値の大切さを理解し、よりよい行為を判断する。

- ・悪いことをしたときに謝ると気持ちがすっきりするからです。
- ・悪いことをしたときは、謝らないとだめだからです。

※ \_\_\_\_\_のように、「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の理解という①知識・技能を記述していたら通過とする。 ★道徳科①

※ 働き掛け3で、どのように行動したらよいかを表現し、働き掛け4で「正直、誠実」「善悪の判断」についていずれかの道徳的価値の理解を理由として挙げていけば③態度を発揮したとして表れありとする(行為と理由とがセットで表れとする)。

----- 本時ここまで -----

### このように働き掛けると【働き掛け5】

○ これからの自分の生活に生かしていきたいことと、理由を問う。

- ・発問「今日もたくさん考えましたね。今日考えた中で、これからの自分の生活に生かしていきたいことはどんなことですか。それは、どうしてですか。ノートに書きましよう」

### このようになる (C5)

○ 課題解決した過程を振り返り、発揮した資質・能力を自覚する。

- ・よくないことをしてしまったとき、正直に言おうか言わないか迷うけれど、がんばって言おうと思います。どうしてかという、正直に言うと気持ちがすっきりするからです。

※ \_\_\_\_\_のように、発揮した資質・能力に関する記述を道徳ノートにしていたら、発揮した資質・能力を自覚している姿とする。 ★道徳科①③

## 8 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け3と4を受けて、\_\_\_\_\_のように「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の理解という①知識・技能を、\_\_\_\_\_のようにどのように行動したらよいかを具体的に考え表現する力という、②思考力・表現力・判断力を記述して③態度を発揮して課題解決したかをワークシートの記述から判断する。
- ② 働き掛け1, 2を受けて、\_\_\_\_\_のように、「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の本質や意義に着目し、経験を基に考えたり、多面的・多角的に考えたりする「見方・考え方」を働かせたかを発言や発話、挙手から判断する。
- ③ 働き掛け3を受けて、\_\_\_\_\_のように「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の理解という①知識・技能と、\_\_\_\_\_のように、どのように行動したらよいかを具体的に考え表現する力という②思考力・表現力・判断力とを発揮したかどうかをワークシートの記述から判断する。  
働き掛け4を受けて、\_\_\_\_\_のように、「正直、誠実」「善悪の判断」についての道徳的価値の理解という①知識・技能を発揮したかどうかを、ワークシートの記述から判断する。
- ④ 働き掛け5を受けて、\_\_\_\_\_のように、発揮した資質・能力を自覚したかどうかを、道徳ノートの記述から判断する。